



先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/01/04

欧米双方の動向に気を配る月に

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	米国の追加緩和、日本の介入への思惑も	2 - 3
		予想レンジ: 75.50 ~ 78.50 円	
カナダ/円	➡	欧州への不安と米国への期待	4 - 5
		予想レンジ: 73.00 ~ 77.80円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	77.61円	78.22円	76.90円	76.94円



①	2日、米11月雇用統計は失業率8.6%(予想:9.0%)と市場予想よりも大幅に良好(2009年3月以来の低水準)な結果となったことから、発表直後はドル買いで反応したが、非農業部門雇用者数が12.0万人増と、事前に拮がっていた「市場予想(12.5万人増)を上回る結果になる」との噂に反して予想を下回ったことから、すぐに下げ幅圧縮。その後、格付け会社フィッチが「スペインを格下げする計画は現時点でない」との見解を示し、クロス円が上昇。これに連れてドル/円は78円台に乗せた。
②	5日、前週末の流れを引き継ぎ早朝に78.10円まで上昇した。しかし、その後は本邦輸出勢のドル売り等によって上げ幅を縮小。その後、サルゴジ仏大統領が「独仏は欧州連合(EU)に関する新条約を求め」などと発言し、ユーロ買い・ドル売りが強まると、ドル/円は反落した。
③	8日、本邦金融機関と見られるまとまった規模のドル売り・円買い注文をきっかけにストップロス巻き込んで急落。さらに、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が会見で「銀行に対し3年物資金供給を実施」などと発表した。一部で期待されていた国債買い入れ額の増額はなかったことで、発表直後のユーロ/ドルが1.3458ドルまで上昇した後に反落すると、ドル/円も連れて77.13円まで急落した後に反発した。
④	12日、9日に開かれたEU首脳会議について格付け会社ムーディーズが「ほとんど新たな提案をしていない」との見解を示したことを受け、欧州株が下げて始まり、ユーロ/ドルでドル買いが強まると、ドル/円は上昇。NY市場に入ると78.00円まで上昇した。
⑤	19日、正午過ぎに北朝鮮の金正日総書記が死亡したことが報じられると、朝鮮半島情勢の先行き不透明感などを背景に対韓国ウォンを中心に米ドル高が進行。ドル/円は78.15円まで値を伸ばした。ただ、78円台では売り圧力も強く、ドル買い一巡後は徐々に上げ幅を縮小した。
⑥	23日、日本は祝日だったが、時間外のNYダウ平均先物が上昇し、クロス円が堅調に推移したことに連れ、ドル/円は78.22円の高値をつけた。
⑦	28日、米為替報告書に「(日本の8月・10月の円売り介入について)支持しなかった」と明記されていたことが伝わると、「日本は今後円売り介入しづらくなる」との思惑から円高が進行。ただし、ポンド/ドルがまとまった規模の売りによって急落すると、ドル/円急反発した。
⑧	30日、年末を目前に市場参加者が少ない中、日本の財務省が発表した12月の外国為替平衡操作(介入実績)が0円だったことを受け、円売り介入への期待感が薄れると、円高が進行し、76.90円の安値をつけた。

USD / JPY

今月のポイント

2011年12月のドル/円相場は76.90円～78.22円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.8%の下落(ドル安・円高)となった。引き続き、為替相場の関心が欧州の債務問題に集中しており、為替相場の主役がユーロである状況が続いている。対ユーロでドルと円が同じ方向に動くため、12月のドル/円相場はほとんど動意がない日が続き、月間の値幅はわずか1.32円という狭さだった。

欧州債務問題に関する報道を受けてユーロ主導で動く相場は、基本的に1月も続きそうだ。まずは格付け会社S&Pによるユーロ圏諸国の格付けに関する見解が1月に発表される予定で、その内容が注目される。さらに、独仏首脳会談(9日)やEU財務相会議(23日)、EU首脳会合(30日)についての思惑などを軸にユーロは取引されよう。ドル/円の場合、対ユーロでの円とドルの動きが綱引きする形で取引される見通しで、やはりドル/円に方向感が出にくい展開が予想される。

ただし、1月の米国では雇用統計や米連邦公開市場委員会(FOMC)のほか、米第4四半期国内総生産(GDP)・速報値など、重要な経済イベントが続く。欧州債務問題についての不安が一服しない限り、米国の経済イベントがドル/円に方向感をもたらすほどの効果は期待しづらいが、そうした中でも、少しずつ米国の金融政策が追加の金融政策に足を踏み出そうとする節が経済指標やFOMC声明などから窺えれば、ドル/円でもドル売りの方が強まってくる可能性がある。12月に日本の政府・日銀が覆面介入を行わなかったことや、米国が為替報告書で日本の8月と10月の円売り介入を支持しないことを明言していたことから、円売り介入期待が低下しつつある点も、ドル/円が下がりやすい要因になってくるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 75.50～78.50円)

今月の注目材料

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月米ISM製造業景況指数	1/19(木)	12月米住宅着工件数
1/5(木)	12月米ADP全国雇用者数		1月米フィラデルフィア連銀景況指数
	12月米ISM非製造業景況指数	1/20(金)	12月米中古住宅販売件数
1/6(金)	12月米雇用統計	1/23(月)	EU財務相会議
1/9(月)	独仏首脳会談	1/24(火)	日銀金融政策決定会合(23日～)
1/11(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)	1/25(水)	FOMC政策金利発表
1/12(木)	12月米小売売上高	1/26(木)	12月米耐久財受注
1/13(金)	12月米貿易収支		12月米新築住宅販売件数
	1月シガン大消費者信頼感指数・速報値	1/27(金)	11月日消費者物価指数
1/17(火)	1月米ニューヨーク連銀製造業景気指数		第4四半期米GDP・速報値
1/18(水)	12月米生産者物価指数	1/30(月)	EU首脳会合
	12月米鉱工業生産	1/31(火)	1月米消費者信頼感指数
1/19(木)	12月米消費者物価指数		1月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	76.26円	77.35円	74.73円	75.47円



①	2日、加11月雇用統計で失業率が予想(7.3%)を上回る7.4%、雇用ネット変化が予想(2.00万人増)外の1.86万人減となった事を受けてカナダ/円が軟化する場面もあったが、米11月雇用統計で、失業率が2年8か月ぶりの水準となる8.6%に低下した事を受けて、時間外のNYダウ先物が上昇すると77.35円まで急騰。ただ、直前に20万人増になるとの噂が出回っていた米非農業部門雇用者数が12.0万人増と予想(12.5万人増)を下回ったため、NYダウ先物が伸び悩むと、カナダ/円もすぐに失速した。
②	6日、カナダ中銀(BOC)は、予想通り政策金利を1.00%に据え置く事を発表。声明文も前回10月の文言をほぼ踏襲した。ただ、事前に予想されていたほど悲観的な内容ではなく、差し迫った利下げの可能性にも触れなかった事で、カナダドル買いが優勢となった。さらにその後、加11月Ivey購買部協会指数が59.9と予想(55.5)を大きく上回ると、カナダ/円は一時77円台を回復した。
③	8日、欧州中銀(ECB)が0.25%の利下げと、期間3年の資金供給オペの導入などの流動性支援策を発表した事を好感して欧州株が持ち直すと、カナダ/円も強含む場面が見られた。しかしその後、ドラギECB総裁が会見で「国債購入を拡大すると示唆した覚えはない」などと発言した事を受けて欧米株が大きく下落すると、カナダ/円は76円ちょうど割り込んで下落した。
④	14日、石油輸出国機構(OPEC)が増産を決定した事を受けて、原油価格が100ドル台から94ドル台に急落すると、カナダ/円は74.87円まで下落した。イタリアの5年債入札後に、同国の10年債利回りが7%前後まで急上昇した事を受けて欧州株が下げ幅を拡大した事もカナダ/円の下落につながった。
⑤	20日、独12月IFO景況指数が予想を上回った事やスペインの短期債入札で落札利回りが大幅に低下した事などを好感して欧州株が上昇するとカナダ/円は買い優勢となった。さらに米11月住宅着工件数が予想を大幅に上回った事などを受けてNYダウ平均株価が上昇、引けにかけて前日比300ドル超の大幅高となると、カナダ/円は75.73円まで上昇した。
⑥	22日、欧州株の堅調推移を背景にカナダ/円も買い優勢の展開となった。その後、米新規失業保険申請件数が36.4万件と2008年4月以来の水準に減少した事などを好感してNYダウ平均株価が上昇すると、76.58円まで上値を伸ばした。
⑦	30日、本邦財務省が発表した12月の外国為替平衡操作(介入実績)が0円だった事を受けて、介入警戒感が薄れると、年末の薄商いの中、ドル/円が77.50円を割り込んで下落。ユーロ/円も一時100円を割り込むなど円買いが強まると、カナダ/円も売り優勢の展開となった。その後、一時プラス圏を回復していたNYダウ平均株価が再び下落に転じた事もあって、カナダ/円は75.40円まで値を下げた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今月のポイント

12月のカナダ/円相場は74.73円～77.35円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは0.8%の小幅な下落(カナダドル安・円高)となった。欧州債務問題の深刻化が懸念された割には、カナダ/円の下落は小幅だったと言えよう。カナダ経済と密接な関係にある米国経済が比較的堅調だった事や、中東情勢への懸念から原油価格が強含んだ事がカナダドルの支えになったものと思われる。

2012年1月のカナダ/円相場も、欧州情勢と米国景気を睨んでの推移となろう。欧州情勢については、最大の焦点はイタリアであろう。同国の10年債利回りは7%前後で高止まりしており、欧州中銀(ECB)による流通市場での買い入れや3年物のユーロ資金供給オペを持ってしても利回り低下につながらなかった。イタリアは年前半に大量の国債償還を迎えるため、借り換えのための国債発行を余儀なくされる。高利回りでの国債発行を長く維持する事は難しく、市場の不安は払拭に向かいにくいだろう。その一方で、米国景気は堅調を維持しそうだ。新規失業保険申請件数が4週平均でもリーマンショック前の水準である37万件台に減少しており、6日の雇用統計にも好結果が予想されている。また、クリスマス商戦の好調が伝えられる中、12日の12月小売売上高にも好結果が期待される。27日発表予定の第4四半期国内総生産(GDP)は10-12月の経済指標の好内容から、一部では年率3%の成長加速が見込まれている。このため、2012年1月のカナダ/円相場は、12月に引き続き、欧州情勢への懸念が上値を抑える一方で、米国景気の堅調推移が下値を支えるという方向感に乏しい展開となる可能性が高く、レンジ内での値動きとなりそうだ。(神田)

(予想レンジ:73.00～77.80円)

今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月米ISM製造業景況指数	1/17(火)	加中銀政策金利発表
	FOMC議事録	1/19(木)	12月米住宅着工件数
1/5(木)	12月加Ivey購買部協会指数	1/13-20	第4四半期中国GDP
	12月米ADP全国雇用者数	1/20(金)	12月加消費者物価指数
	12月米ISM非製造業景況指数	1/23(月)	12月加景気先行指数
1/6(金)	12月加雇用統計		ユーロ圏財務相会合
	12月米雇用統計	1/25(水)	FOMC政策金利発表
1/9-13	12月中国消費者物価指数	1/27(金)	第4四半期米GDP・速報値
1/10(火)	12月加住宅着工件数	1/30(月)	ユーロ圏首脳会議
1/11(水)	米地区連銀経済報告	1/31(火)	11月加GDP
1/12(木)	12月米小売売上高		1月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。